

# 桂・ニュース

KATSURA  
NEWS

## 基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な  
基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次  
の医療に対応できるよう努力します。

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

2  
月  
号

NO. 203

2013・2・1

毎月1回・1日発行  
〒615-8256 京都市  
西京区山田平尾町17  
TEL.075-391-5811(代)

編集：広報課  
印刷：(有)アクト

京都桂病院ホームページ

<http://www.katsura.com>

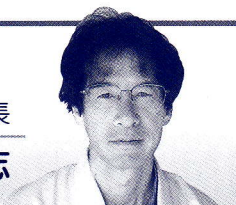


## COPD (慢性閉塞性肺疾患)

## の治療

呼吸器センター  
呼吸器内科 部長

西村尚志



COPDはタバコで起こる病気で、禁煙が治療の前提となります。慢性期の薬物治療の第一選択は吸入の長時間作用型抗コリン薬で、吸入の長時間作用型β2刺激薬や吸入ステロイド薬を併用することもあります。

COPDはタバコが原因で肺が傷んでしまう病気で、「肺気腫」という病名とはほぼ同じ意味です。息切れ、慢性的な咳や痰がよく見られる症状です。喫煙歴があること、肺機能検査で息を吹く力(一秒率といいます)が低下することで診断します。胸部レントゲンやCTで気腫性変化と言われる「肺がスカスカになる変化」が見られるケースが多いです。

**禁煙が最重要。禁煙 = スタートラインです。**

COPDはタバコが原因の病気です。それ故、現在まだ喫煙している患者さんでは前述の薬物治療を考える以前に、禁煙することが最も重要であり、禁煙して初めて治療のスタートラインに立てるものと考えています。

タバコの怖いところは、禁煙できても今まで吸った分は消えない、ということです。また、タバコで一度傷んだ肺は元には戻りません。ですから、タバコは最初から吸わないのが一番良いのですが、禁煙は早ければ早いほどダメージが少なく、結局患者さんが苦しまなくて済むことになります。

急性増悪、感染増悪を少しでも防ぐために、インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンの接種が勧められます。

一度COPDとなると完全に治ることは無く、病気とうまく付き合っていくということが重要になります。

慢性期には息切れなどの自覚症状と肺機能の改善を目的に薬物治療を行います。薬物治療の第一選択は長時間

作用型の吸入抗コリン薬で、それで不十分な場合は長時間作用型の吸入β2刺激薬、吸入ステロイドを追加します。慢性的に喀痰が多い場合も多く、飲み薬の喀痰調整薬(去痰薬)を併用します。飲み薬のテオフィリン製剤を併用する場合もあります。

2013年1月の時点、日本で使用可能な長時間作用型吸入抗コリン薬は2種類あります(スピリーバ、シープリ)。長時間作用型吸入β2刺激薬も2種類あります(セレベント、オンプレス)。吸入ステロイドは5種類あり(フルタイド、パルミコート、アズマネックス、キュパール、オルベスコ)、吸入ステロイドと長時間作用型β2刺激薬との合剤も2種類使用可能です(アドエア、シムピコート)。

COPDの重症度は肺機能検査で軽症、中等症、重症、最重症と4段階に分類します。最重症例では、自宅での酸素吸入が必要なる場合も多いです。

急性増悪時には、薬物治療としては、抗菌薬、気管支拡張薬、ステロイド薬を用います。酸素が不足している状態になっている場合も多く、その場合には酸素吸入をしてもらいます。点滴治療・酸素吸入が必要な場合には入院加療が必要となります。運動耐容能や日常生活での活動性(ADL)を維持改善する目的でリハビリテーションを併用する場合もあります。

COPDは、徐々に進行していく病気であり、早期の禁煙と早期の治療開始が重要です。

## 京都桂病院

## 土曜コンサート

今回は、堀音父母の会の協力で、フルートとヴァイオリン、ピアノでお楽しみいただきます。

入院されている患者さんだけでなく、外来へ通院中の方・在宅で療養されている方・そして地域の皆様もぜひご鑑賞ください。

お楽しみに!

日時：3月16日(土) 午後2時~3時

会場：外来棟1階ロビーにて

曲目：◆ 四季メドレー  
◆ アメイジンググレイス  
◆ 愛のあいさつ etc